

飯地地区農業振興基本計画

(飯地地区 人・農地プラン)

計画策定委員

座長	各務 廣茂			
委員	長谷部 廣資	柘植 賢二	柘植 勝彦	瀬瀬 政行
	瀬瀬 佳恭	柘植 静一	柘植 芳樹	瀬瀬 充
	山口 康夫	平井 一兵	瀬瀬 いそ子	別府 梢
	肥田 敏雄	加納 大士		

事務局 J A 東美濃農業協同組合 恵那北部支店（飯地営業所）
J A 東美濃農業協同組合 恵那アグリセンター
恵那市役所 農政課

計画策定（当初）		平成	23年	4月	1日
計画期間（中期）	始：	令和	3年	4月	1日
	至：	令和	13年	3月	31日
更新年月日		令和	2年	10月	13日

飯地地区農業振興協議会

第1 地区農業の現状

1 農業生産の動向

(1) 地区農業の取組み経緯

飯地町は恵那市の北部に位置し、世帯数 258 戸、人口 621 人と恵那市で最も少ない地域である。耕作地の標高は、600m以上ある高原で農業を営んでいる典型的な中山間地域である。農作物は稲作を主体に成り立っている。気温の寒暖差が大きいことから美味米として好評を得ている。

「中山間地域等直接支払制度」の第4期が終了し今年から第5期が始まり、町内一同で協定を結び中山間地域等直接支払制度・多面的機能支払制度に加入して農家・農業振興に大きく貢献している。制度を活用し、営農組合の活動継続により農作業の受委託の促進を図り、農業継続者育成の基盤も整えてきた。事業交付金の積み立てを行い、交付金で集落営農センターの改修工事・農道の舗装整備・電気柵購入・大型農業機械の導入を行うことで、農作業の受委託を促進することができた。また、組合の組織力により地域の円滑な生産調整が行われ地域農業への貢献に寄与してきた。また、今後、担い手・農業後継者の発掘を図りたい。委託者は高齢化に伴い増加すると思われるが、組合オペレータの高齢化問題により農地受託可能面積は減少してしまう懸念がある。営農組合自体の運営についても高齢化により後継者育成が問題となっている。

国道 418 号線の開通による都市部からの人口の流れができ、新たに道の駅構想への期待も高まる。また、飯地高原自然テント村のリニューアルにより現在は大幅に利用者が増えた。今後、テント村と農業の結び付けを図り、利用者と農業者の交流を深めた取り組みを展開し町内の農業発展につなげていく。

(2) 主要品目の生産状況

主要生産物の主流は、水稻で 41ha（内飼料米 11ha）の作付けがなされ、生産調整作物については、畜産農家との契約で飼料用稲や蕎麦の栽培で賄っているが、新規需要作物としての補助金により経営が成り立っている。他の生産物では、養鶏場（法人）・畜産農家・園芸農家が専業経営のほか、スイートコーン・落花生・黒豆等の作物・蒟蒻芋・薩摩芋・栗等の栽培の取り組みも行われている。

2 農業構造の動向

(1) 担い手の状況

農業従事者の高齢化が進み、農作業委託者が増える中、営農組合の設立は地域農業の担い手育成・農業機械への過大投資の回避が出来、農業の存続に大きく貢献が出来ている。今後は、作業委託の需要が増加し、農地の集積できる団体として、法人化に向けた取り組みも行っていく必要がある。また、大型機械を導入したことによりオペレータ後継者育成・技術取得を図る事が課題となる。スマート農業（ドローン・大型草刈機・トラクター等）による作業での技術取得を図る取り組みを行っていき必要があり、それと並行して高原を活かした農業経営を行う担い手農家や新規就農者の育成も行う。農業を主たる生活基盤と生計できる人材育成を確保するため、農地の集約、営農組合との連携、小さなビジネス（兼業農家）として個人農家の農業所得の向上に努める。

(2) 農地の利用状況

個人への委託により耕作地の貸し・借りをを行っているが、農産物の所得補償制度が画一化されれば、正規な貸借契約により、管理者の明確化を促進する必要性から、委託希望者には理解を得て契約を促し、最大限、農用地の集約を図る必要がある。現在、農地中間管理機構の利用があるが、当地域の地形により小さな農家が分散化しており、農地委託したいが、受託が困難な状況で、集約しやすい農地整備に努める。優良農地で大型機械作業適地、一定面積の団地化とそうではない農地を分け、農地の今後の利用について、耕作放棄地の対処方針と共に検討を行う。

近年では獣害による農産物の被害が目立ち、耕作放棄の懸念が出ており、町内一体となった獣害対策を検討していかなければならない。町全体をワイヤーメッシュ柵で囲む計画検討を行い、補助金を活用しての設置を実施していきたい。この実施に向け大きな作業費用がかかることから、資金の積み立てを行う必要がある。

(3) 農村社会

高齢化の進む当地では、営農組合の活動を通じて、町民の連帯感の維持に努め、町の活性化に繋がるさらなる特産品の創造や取り組みグループの育成も課題となる。現在は五毛座の調理室を改修し特産品部会の農産物加工品等を販売し、ふるさと納税にも紹介を行い活性化に努めている状況である。また、リニューアルし集客の多くなった飯地高原自然テント村や国道 418 号線の開通に伴う小さな拠点等を活用しながら、高地メリットを活かした高原野菜の開発を行い、農産物の販売を通じ地産地消に取り組んでいきたい。

第 2 地区農業の問題点・課題

1 地区の農業のあり方

(1) 地区の農業組織のあり方

農業振興協議会が、地域農業振興の基軸となるためには、飯地自治区運営委員会（飯地自治区協議会）と一体となった事業展開が欠かせず、組織整備・構成員の見直しも検討する必要がある。また、当地区の農業振興には農業を主な生業とする人材を組織の中核に置く必要がある。

(2) 農地の有効利用

農地の貸借は、一部営農組合に集積はしているものの、個人での貸借が主となっている。農用地の利用集積を正規な契約で行い、農地の保全活動や、営農組合への積極的な参加を促す。また、未整備農地の利用状況をアンケート分析による地図化で正確に把握し、集約化を行う。今後、その農用地が活用できるように地権者との協議が必要となる。基盤整備を行ってから 10 年以上経ち、圃場で老朽化が進み高低差が進行し修繕が必要な時期を迎えている為、中山間地域生産基盤整備促進事業補助金を申請している。整備事業の実施には資金の積み立てを実施する必要がある。

(3) 人材の育成確保

(地域の農業の担い手として営農組織、認定農業者、生産組織、また農業振興を企画する人材、それを推進する人材、あるいは中堅、老人、婦人が農業にどのように係っているか。)

アンケートの実施により今後の農業の後継者問題と耕作放棄地の増加予想に不安が残る。今以上に農業委託が増加することが予想されるが受託側とのバランスを保つ必要がある。営農組合を中心に、オペレータ・後継者の育成を行えるように、組合活動に若者の参加を促し、人材確保に努める事が営農組合運営の鍵となる。また、女性層の中でも若い方の農業参加は、地域農業の大きな課題であり、営農組合活動を通じて、特産物の生産計画・農産物加工計画など、人材としてなくてはならない存在である。外部の人材確保として農業を行う若者農業者の誘致実施にあたり、移住定住促進により担い手農業経営者の確保を行い、農業者による農務協定を結び、働き甲斐のある経営を手助けし労働の場の創出を検討することは、人口減少対策としても必要である。

(4) 都市と農村との交流促進

飯地高原自然テント村は平成 29 年に氏の補助にて大きなリフォームを行いリニューアルオープンした。管理は町外からの移住定住の夫婦が行っており、現在は利用者も非常に増加し中でも大きな音楽イベント開催も成功し大いに期待されている。テント村の利用者への町内農産物の紹介や農業体験を通じて差別化された魅力あるテント村との交流促進に取り込みたい。

国道 418 号線の開通に伴い小さな拠点等の販売所を設立し飯地の産物を利用した特産品の提供の場として、新たな交流の拠点を作り、利用者・住民・生産者が度々ふれあえる機械を設営する事が、利用者・来訪者拡大のキーワードとなる。

(5) 生産・加工・流通体制の整備

この地域の利点を生かした特産品の発掘は必至であり、地域一体となった生産体制の確立が必要になる。現在では特産品部会の天空米、野菜、するめの麴漬、あげの醤油漬け等の販売や五毛座での朝市を行っている。今後は新しい特産品の開発が必要となる。

(6) 農村環境の整備

(都市に比べて農村は、生活環境面の基盤整備が遅れているがどうか。自然環境の保全、農村衣食住文化面ではどうか。)

住環境では、幹線道路を含め集落の道路整備を積極的に進め交通アクセスの向上を期待している。現在は指導の拡張と国道 418 号線の着工がなされているので、早期完成に期待が高まる。

2 地区の現状把握

(1) アンケートの実施

地区の農地利用に関して現状を把握するため、定期的にアンケートを実施する。主な内容は、耕作者の年齢、所在不明農地の確認、耕作状況、担い手への貸付けの希望の有無、5年先・10年先の耕作予定、後継者の有無、中間管理機構の利用希望の有無、農地集約化の可否、今後の耕作拡大の有無等について調査を実施した。今後は、必要に応じて調査項目を変更する。

(2) アンケートの実施時期 1回目 令和元年（最新）

(3) アンケートの結果

ア	地区内の耕地面積	90.91ha
イ	アンケート調査に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	81.24ha
ウ	地区内における65歳以上の農業者の耕作面積の合計	46.80ha
	(ア) うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	27.72ha
	(イ) うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	4.61ha
エ	地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	5.12ha

(4) その他 別紙、アンケート調査結果（グラフ）、アンケート調査結果（地図）

第3 地区農業・農村の活性化方策

1 農業農村の活性化の目標（柱立て）

未来像 「農が織り成す人とのふれあい・支えあい・天空の里」

- 地域の特性を生かした産物の提供・交流の場を設営・安定した流通、供給を目指す
- 農地集約による、圃場環境整備（農産物の計画生産・農作業の効率化・獣害対策等の企画）
農業を生業とする人材作り
- 地域特産品として付加価値を高める為の農産物加工施設の設置と女性の活動組織を構築し、
施設運営の充実を図る

2 推進方策

(1) 組織

農業振興協議会を中心とし、町内各組織との連携

営農組合の経営計画と農作業効率化・就業拠点の設置・オペレータの安定的な賃金確保

(2) 農地

農地の見直し

- ・圃場整備の再整備への検討農地の見える化による耕作地・未耕作地の把握検討、作物別・品種別の作業効率

- ・農産物の安全性の追求、安心の提供、中山間地域生産基盤整備促進事業補助金の活用
獣害対策
- ・山と里の境（ワイヤーメッシュ柵の設置）を付け、棲み分けできる農地・森林管理
（補助金を利用し住民の獣害対策に関する対応の統一を図り、荒廃地・荒廃林の防止意識を高め、
地域と一体となった取り組み）

（３） 人材

- 営農オペレータの育成・後継者育成・新規就農者の受け入れ
- 女性就農者の推進

（４） マーケティング

- 飯地高原を活かした高原野菜の栽培及び販売拠点の確保
（飯地高原自然テント村販売・朝市販売・インターネット販売）

（５） 生産・加工・流通

- 加工グループの運営・組織の充実
- 新規作物の栽培検討（郷土色豊かな作物の生産検討）
- やさい栽培講習会の開催
- 新規生産者「トマト」「なす」農家推進（儲かる農業を目標）
- 産物販売拠点整備（道の駅等）

（６） 農村環境

- 特産品の地域振興策への取り組みと来場者招致のイベント開催の企画
- 天空米・スイートコーン・手打ち蕎麦の特産化
（独自性を持った製品開発：天空の里のイメージを提供する）
- 観光ルートの発掘・開拓による訪問者へのアピール
（秋葉山・平瀬滝・大洞滝の散策道の整備）
- ・飯地高原自然テント村、五毛座歌舞伎、民俗資料館
- ・就農者の高齢化に伴い農作業の受委託の推進と農用地の集積管理
（担い手、農地中間管理機構の利用）
- ・高原を利用したブランドの販売 P R

（７） 人・農地プランの周知、活用

地区農業振興基本計画（人・農地プラン）を地域の農業の方針を示すものとして、農業振興協議会が中心となり、担い手や地域の耕作放棄地の解消などの地域農業に関することを定期的に協議し、見直しをする。また、定期的に農地利用に関するアンケートを実施し、地域の農業の状況を把握する。また、当計画を地域に周知し、地域と一体となって計画を推進する。

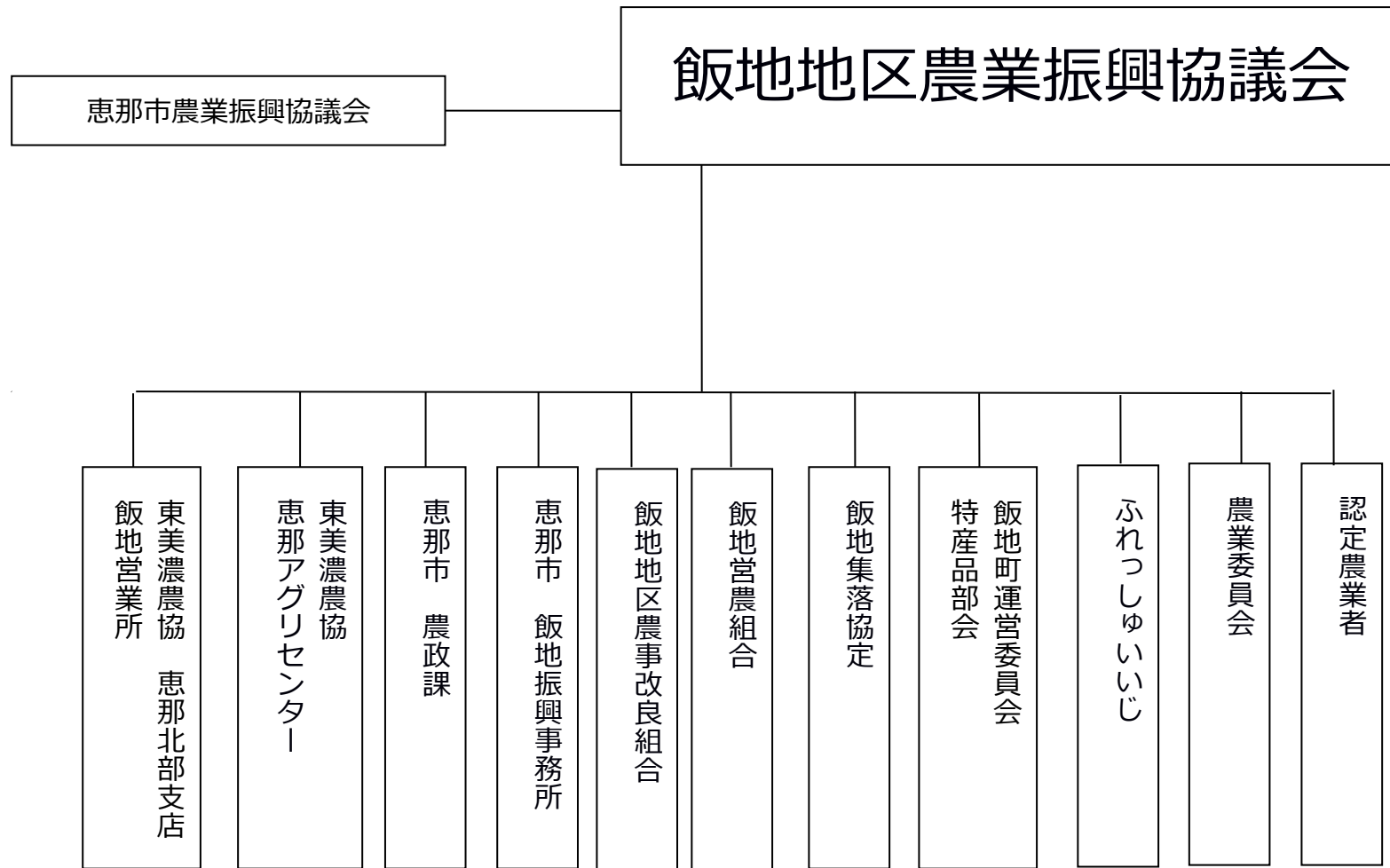
3 農業生産の目標

品 目	指針方策	生産量
天空米・もち米	ブランド要件の確立と生産者意識の改革 イベント用もち米の作付け・加工品取り組み	25ha×4700kg 5ha×4200kg
天空コーン (スイートコーン)	安定生産・オーナー圃場の推進 適地品種の検討	50~100 区画
コンニャク芋	獣害対策作物・加工製品としての取り組み 荒廃地の改良・改植	1ha
そば	交流の場への提供・加工による付加価値	5ha
菊芋 薩摩芋 自然薯	付加価値作物としての取り組み 獣害対策の必要性	50a
栗	恵那市の振興作物として、耕作放棄畑地の利用促進	3ha
トマト なす ピーマン きゅうり	標高を生かした作目で栽培農家を育成する	50a
花豆	付加価値作物としての取り組み 未耕作圃場の活用作物・女性就農者の参画	50a

第4 事業実施計画

	事業名	事業内容	事業効果	事業主体	事業年度	概算事業費
1	やさい栽培講習会 新規就農者対策	新規推進作物の定着を図るための技術講習会・栽培体系を画一し、安定的な栽培者の育成を図る	新規作物による、農業の活性化 新規就農参加者・女性層の加入と農家収入の増大が期待	農業振興協議会 営農組合	令和3年～ 7年度	
2	獣害対策	獣害から農地を守り、人と獣の棲み分けができる設備の建設 (ワイヤーメッシュ設置)	農業収入の安定確保 計画的な生産計画の樹立	農業振興協議会	令和3年～ 順次整備	
3	加工施設利用	こんにゃく・スルメ・天空米・あげ・餅・朴葉鮓など	安定した特産物への取り組み 農業所得向上	特産品部会 飯地町運営委員会	令和3年～ 7年度	
4	圃場整備事業	条件不利地の解消・圃場条件の見直しによる改良整備・農道整備・耕作放棄地の解消推進（中山間地整備補助事業、耕作放棄地解消支援事業）	農作業の効率化 新規耕作者の斡旋	農業振興協議会 ふれっしゅいいじ	令和3年～ 順次整備	

飯地地区農業関係組織図



別紙1 人・農地プラン

市町村名	対象地区名	作成年月日	直近の更新年月日
恵那市	飯地地区	令和 2 年 10 月 13 日	令和 2 年 10 月 13 日

1 対象地区の現状

(1) 地区内の耕地面積	90.91 ha
(2) アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	81.24 ha
(3) 地区内における65才以上の農業者の耕作面積の合計	46.80 ha
ア うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	27.72 ha
イ うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	4.61 ha
(4) 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	5.12 ha
(備考)	

2 対象地区の課題

農業の後継者問題と耕作放棄地の増加が予想される。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

優良農地で大型機械作業適地、一定面積の団地化とそうではない農地を分け、農地の今後の利用について、耕作放棄地の対処方針と共に検討を行い、集約しやすい農地整備に努める。
--

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

営農組合の法人化
スマート農業の導入
高原を活かした農業経営を行う担い手農家や新規就農者の育成、個人農家の農業所得の向上
町の活性化に繋がる特産品の創造や、取り組みグループの育成

別紙2 今後の地域の中心となる経営体

(1) 担い手（認定農業者等）

No	属性	経営体（氏名）	申請時		今後の農地利用計画		備考
			経営内容 （作目）	経営規模 （ha、頭数等）	経営内容 （作目）	経営規模 （ha、頭数等）	
1	認定 農業 法人	(株)クレスト	育成鶏 採卵鶏	340,000 1,122,000 羽	育成鶏 採卵鶏	340,000 1,122,000 羽	広域認定 (関市、瑞浪市)
2	認定 農業者	山口 康夫	水稲 飼料用米 和牛繁殖 和牛肥育	1.3 ha 2.7 6頭 2頭	水稲 飼料用米 和牛繁殖 和牛肥育	4.0 ha 5.0 12頭 10頭	
3	認定 新規 就農者	別府 伸一	サツマイモ ミニトマト キュウリ 水稲	0.40 0.02 0.06 0.10 ha	サツマイモ ミニトマト キュウリ 水稲	0.40 0.10 0.10 0.10 ha	

(2) 地域の担い手（認定農業者以外）

No	属性	経営体（氏名）	策定時（R2）		今後の農地利用計画		備考
			経営内容 （作目）	経営規模 （ha、頭数）	経営内容 （作目）	経営規模 （ha、頭数）	
1	集落	飯地営農組合	水稲、飼料用 米、そば	8.9 ha		- ha	
2	個人	山田 利弘	水稲	2.4 ha		- ha	
3	個人	瀬瀬 経善	水稲	1.2 ha		- ha	

農地の利用に関するアンケート

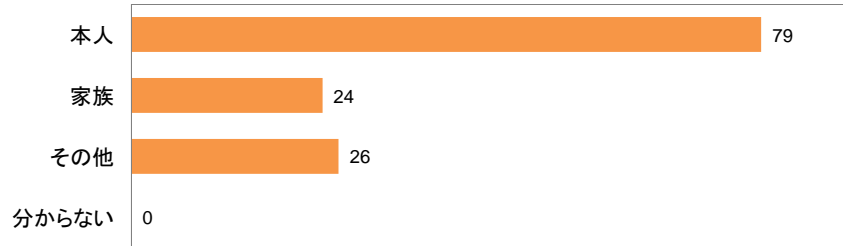
恵那市 飯地町 地区

アンケート実施期間: 令和元年10月15日～令和2年3月10日

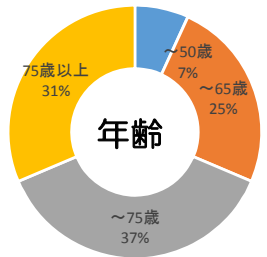
農地面積 1,022,992 回答面積 812,488 回答率 79.4%

対象者数 149 回答数 127 回答率 85.23%

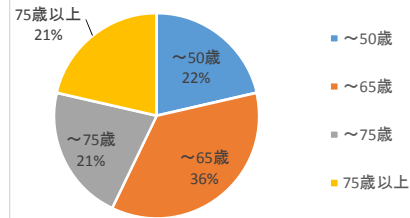
問1 所有農地で主に農業に従事している方はどなたで年齢はおいくつで…



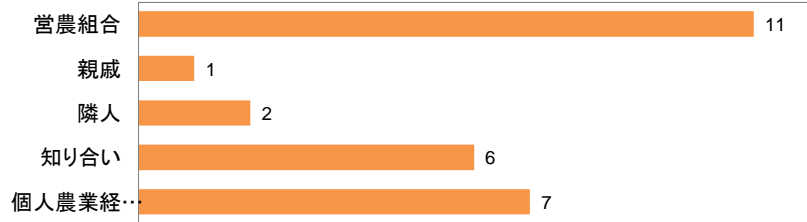
問1 農業従事者の年齢



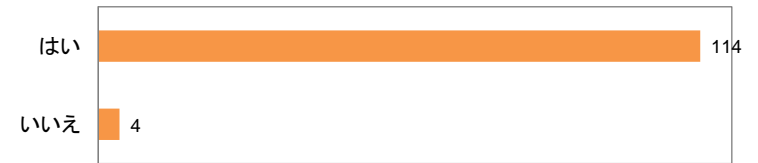
問2 農業従事者の年齢



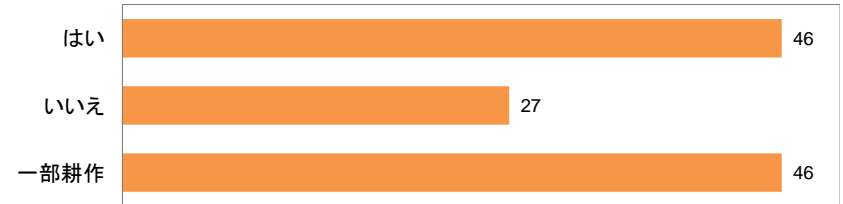
問2 問1で【その他】に○を記入された方は、誰が農業に従事していますか



問3 所有する農地の場所を把握していますか



問4 所有する農地全てを耕作していますか



問5 問4で【はい】に回答された方は、自己所有地以外の農地も耕作していますか



問6 問4で【いいえ・一部耕作】に回答された方は、現在、耕作していない農地の貸付を担い手に希望されますか

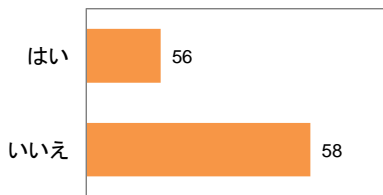


■ 問7 問6で【いいえ】と回答された方は、貸付しない理由をお答えください

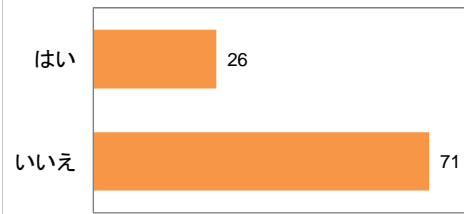
[理由]

- 水がないため耕作不能
-

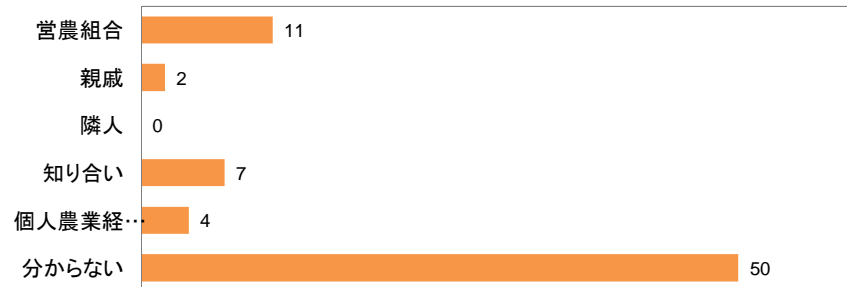
■ 問8-1 5年先も継続して自ら耕作できますか



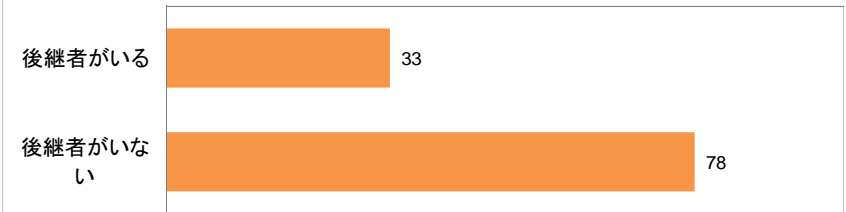
■ 問8-2 10年先も継続して自ら耕作できますか



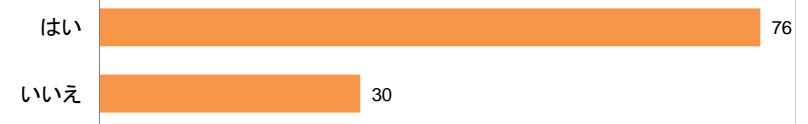
■ 問9 問8で【いいえ】に○を記入された方は、誰が耕作しますか



■ 問10 農業後継者はいますか



■ 問11 耕作できなくなったときに、中間管理機構を利用して農地を預けたいですか



[いいえ]の理由

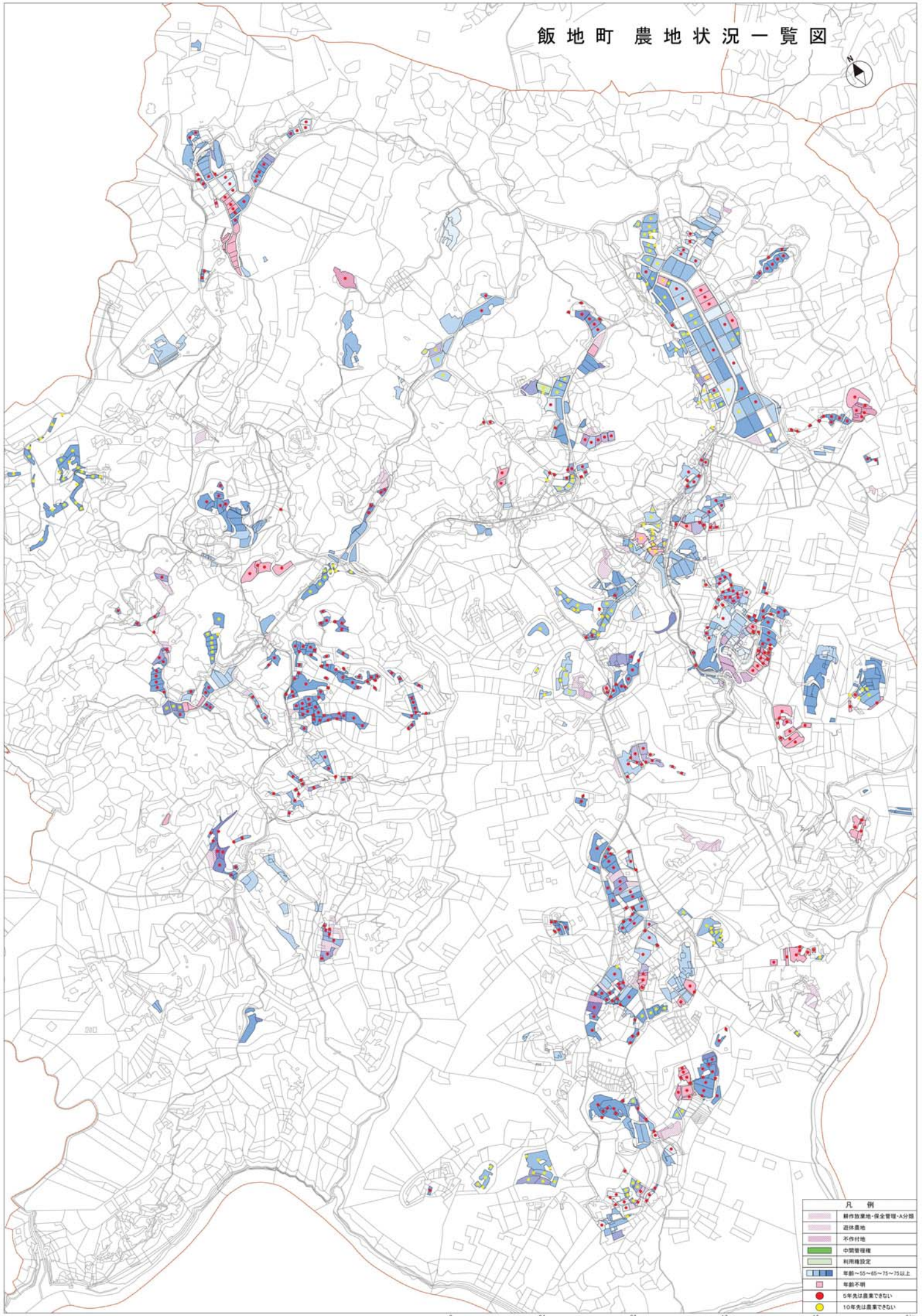
■ 問12 農地の集約化は可能ですか



■ 問13 農地を借りて耕作面積を拡大したいですか



飯地町 農地状況一覧図



凡例	
	耕作放棄地・保全管理・A分類
	遊休農地
	不作付地
	中間管理種
	利用種設定
	年齢～55～65～75以上
	年齢不明
	5年先は農業できない
	10年先は農業できない